

77-1 大昔（大森縄文人住居）と昔（馬込文士村）の文人住居を訪ねる（6.0km）

かつてこの辺りは、住環境に優れ、多くの文士や芸術家が住み「馬込文士村」と呼ばれていた。そして、もう一方の文人（縄文人）にとってもこの辺りは、生活に適した土地であった。

両文人たちが豊かな生活を送るために歩いたであろう、台地とこれに切れ込む谷が織りなす起伏に富んだ道をたどる。



山王花清水公園

地図豆知識：東京都内の文士村

・馬込文士村：

大正末期から昭和初期に、東京の馬込から山王にかけての一带には、多くの文士、芸術家が住んでいて、互いの家を行き来し、交流を深めていた。当時の馬込は武蔵野の面影を色濃く残し、静かな田園風景が広がっていたらしい。そして、この辺りを「馬込文士村」と呼ぶようになった。

都市化が進んだ今では、住宅密集地ながら緑もやや多く閑静な街並である。起伏に富んだ小道は、かつて文士達が歩いた散歩道である。その文士たちの住んでいた場所には、モニュメントが置かれている。

この辺りに住居を構えた主な文人たち。

石坂洋次郎、宇野千代、尾崎士郎、川端康成、川端龍子、北原白秋、倉田百三、小林古徑、佐多稲子、佐藤惣之助、子母沢寛、高見順、竹村俊郎、日夏耿之介、広津柳浪、広津和郎、藤浦洸、三島由紀夫、三好達治、室生犀星、山本周五郎、山本有三、吉屋信子、和辻哲郎など

・田端文士村：

田端は、明治の中頃、雑木林や田畑の広がる閑静な農村であったが、上野に東京美術学校（現、東京芸大）が開校されると、明治33年に小杉放庵（画家）、そののち板谷波山（陶芸家）、吉田三郎（彫塑家）、香取秀真（鋳金家）、山本鼎（画家・版画家）といった若い芸術家が住むようになり、そうした画家を中心に“ポプラ倶楽部”という社交の場も作られ、まさに芸術家村となった。

そこへ大正3年以降、芥川龍之介、室生犀星、萩原朔太郎、菊池寛、堀辰雄、佐多稲子らも田端に集まり、大正末から昭和にかけての田端は文士村としての一面を持つようになった。

・杉並（文士村）

杉並区の阿佐ヶ谷のあたりは、かつて数多くの著名な文士が活動していた。

大正12年の関東大震災以後、東京西部の新興住宅地となった阿佐ヶ谷・荻窪界隈には、井伏鱒二、青柳瑞穂、伊藤整など多くの文士が移り住み、これら文士は、戦前から戦後にかけて数々の文芸誌を刊行した。そして「阿佐ヶ谷会」という交遊の場を設け、たがいに影響し合いながら文学への情熱を燃やし、独自の創作活動を展開した。

「阿佐ヶ谷会」のメンバーとなったのは、井伏鱒二、青柳瑞穂、太宰治、伊藤整、臼井吉見、中野好夫、火野葦平、亀井勝一郎、河盛好蔵、三好達治などである。

・落合文士村

上記の文士村に比べて知られてはいないが、中井駅と東中野駅を結ぶ落合一帯にも昭和の初期には多くの作家や詩人たちが住んで活発に活動していた。

昭和5年に林芙美子が住まいするようになって後、尾崎一雄、檀一雄、中野重治らもやってきて、辺りは昭和初期までの間、左翼的な文学・演劇活動の中心地となり活動を展開した場所となった。

そこに登場する人物としては、林房雄、平林たい子、小林多喜二、中条（宮本）百合子、神近市子、佐多稲子、高見順らが上げられる。

【道順】

00JR 大森駅→01 天祖神社→02 闇坂→03 山王公園（縄文人集落跡？）→04 山王公園→05 山王会館→06 養慶寺義民六人衆墓・熊野神社→07 山王花清水公園湧水→08 室生犀星説明板→09 藤浦洸など説明板→10 徳富蘇峰旧宅（山王草堂記念館）→11 日夏耿之助説明板→12 鹿島庚申塚遊園・大森貝塚庭園→13 円能寺・日枝神社→14 大森貝塚跡→15 山王小路飲食店街・八景坂→162JR 大森駅

コースマップ



【街歩き解説】

・馬込文士村：（前掲）

・大森貝塚とモース博士：

「日本考古学発祥の地」大森貝塚を発掘したエドワード・シルベスター・モース(Edward Sylvester Morse 1838~1925)は、アメリカ人の動物学者であり、生物研究のため1877年(明治10)に来日した。そして最初の上京となる、横浜から東京に向かう汽車の窓から貝塚を発見した(1877年(明治10)6月19日)。これが大森貝塚である。

この発掘は日本で初めての学問的な遺跡の発掘である。博士の滞日期間は通算2年半に過ぎないが、終生日本を愛しつづけ、帰国後も講演などでアメリカ人の日本理解に努めた。また、陶磁器から日用品まで多くの生活道具を収集し、それらは現在貴重な美術・民俗資料となっている。フェノロサやビゲローなどの来日にも関わり、日本美術の保護・発達にも寄与した。



大森貝塚庭園モース博士像・大森貝塚碑

・ 室生犀星（山王 4-13 水路跡、南馬込 1-59-22）：

石川県生まれ。俳句や詩を学びながらの放浪生活の後、詩誌「感情」を創刊。その後小説にも目覚め、詩人・小説家として活躍する。主な作品には「愛の詩集」「抒情小曲集」「幼年時代」「あにいもうと」「杏っこ」などがある。

・ 尾崎士郎（南馬込 4-18 道路）：

愛知県生まれ。大正 9 年 21 才の著作「獄中より」で小説家としてスタートする。宇野千代と結婚、のちに別居。「人生劇場」は青春編～望郷編まで 7 編に及ぶ大作で、彼のライフワークとなった。

・ 日夏耿之助旧宅跡（山王 1-25-21 山王第一児童公園）：

長野県生まれ。芸術至上的な詩集「転身の頌」「黒衣聖母」で民衆詩派と対立。日本初の体系的詩史「明治大正詩史」で、読売文学賞を受賞。文学博士。

・ 山王草堂記念館：

徳富蘇峰は、肥後国上益城郡杉堂村（現在の熊本県上益城郡益城町上陳）の生まれ、明治・大正・昭和の 3 つの時代にわたる日本のジャーナリスト、思想家、歴史家、評論家。日本最初の総合雑誌「国民之友」を創刊した。大正 14 年から昭和 18 年まで住んでいた旧宅「山王草堂」の書斎などをここに保存。関係資料も展示。



山王草堂記念館 徳富蘇峰像

+* * *+ オフィス 地図豆 Yamaoka mitsuharu +* * *+